

地域主体の持続的まちづくり活動の動向と特性 その10

日大生産工（院） ○杉田 悠登 同 松村 拓音
大和ハウス工業 井出 綾香 福岡大学 野田 りさ 日大生産工 北野 幸樹

1. はじめに

本研究は前稿「地域主体の持続的まちづくり活動の動向と特性 その9」に引き続く研究である。前項では、地域居住者の生活、まちに対する意識や現状を把握し、物理的環境と社会的環境の2つの環境要因と地域居住者のまちへの意識の相補的關係を分析し、地域に対する大切にしたい想いの形成過程、地域主体の持続的まちづくり活動の傾向的特徴について整理し、環境要因と地域への大切な想いの形成の相補的關係と今後のまちづくり活動の展望を報告することで、傾向的特性について知見を得た。

本稿では、地域居住者の地域に対する周辺環境への満足度を整理し、福祉のまちづくり活動の位置付けと役割を明確化することで、地域主体の持続的まちづくり活動の傾向的特徴について分析し、今後のまちづくり活動の展望を報告する。

2. 調査概要

調査対象は、地域主体のまちづくり活動の持続性に関して、東京都、神奈川県、千葉県、埼玉県、茨城県、群馬県、栃木県、長野県の1都7県の各市区町村内でまちづくり活動組織に支援を実施している地域を対象としている。その中で、国勢調査より15年間の人口が減少傾向にあり、空き家が増加傾向にある地域の居住者を調査対象とする。（表1）

調査方法は、対象地域で活動している自治体にメールにて依頼をし、承諾を得られた自治体に郵送にてアンケートを送付し、それぞれの居住者にアンケート用紙を用いて回答を得る方法で調査を実施した。（表2）

表1 調査対象と回収率

対象都道府県	対象市区町村	配布数（件）	回答数（件）	回収率（%）
埼玉県	狭山市	100	24	24%
	杉戸町	30	15	50%
	入間市	145	7	5%
千葉県	千葉市 中央区	100	47	47%
	千葉市 稲毛区	8	8	100%
	千葉市 花見川区	132	34	26%
	千葉市 若葉区	40	17	43%
合計		555	152	27%

表2 アンケート調査項目

アンケート調査項目
No.1 回答者について
性別/年齢/居住年数/家族構成/居住形態/職業/移動手段（普段の）
通勤通学先/通勤通学手段/通勤通学時間/まちへの愛着/まちへの定住意識/
No.2 お住まいの地域について
地域交流の認知度/地域交流の参加状況/参加理由/参加状況/活動状況/交流頻度
地域交流関心度/参加意欲/参加頻度/地域交流の要望/意識変化
No.3 まちづくり活動について
まちづくり活動の認知度/活動内容/活動参加度/意識変化
まちづくり活動の要望/まちづくり活動評価
No.4 お住まいの地域の周辺環境・支援・制度について
自然環境/街並みや風景/買い物する環境/医療・福祉施設/娯楽・レジャー施設
交通網/道路の整備/公園・緑地/河川の整備/下水道の整備/ごみの処理/消防・救急
農業の環境/工業の環境/商業・サービス業の環境/子育て支援/就学前教育/小学校教育
高等学校教育/国際交流/スポーツ環境/健康づくり/保険・医療サービス
高齢者福祉サービス/障害者福祉サービス/社会保障制度
No.5 生活時間調査
（月）～（金）の自宅にいる間の過ごし方
（月）～（金）の徒歩圏内（歩いて移動する範囲内）の近隣空間での過ごし方
（月）～（金）の移動が1時間を超える場所での過ごし方
（土）、（日）、祝日の自宅にいる間の過ごし方
（土）、（日）、祝日の徒歩圏内（歩いて移動する範囲内）の近隣空間での過ごし方
（土）、（日）、祝日の移動が1時間を超える場所での過ごし方

3. 持続的まちづくりにおけるまちづくり活動と地域交流の位置付け

Fig.1によると、まちづくり活動について「とても知っている」と回答した居住者のうち、33.3%がまちに対して「とても好きである」と回答し、残りの66.7%が「好き」と回答している。また、まちづくり活動の認知度が低くなるにつれて、まちへの愛着が減少する傾向があることがわかる。

Fig.2によると、まちづくり活動について「とても知っている」と回答した居住者全員が、まちに「ずっと住み続けたい」と回答していることがわかった。さらに、まちづくり活動の認知度が下がると、まちへの定住意識も低下する傾向があることがわかる。

Fig.3によると、「とても知っている」と回答した居住者の100%、また「知っている」と回答した居住者の78.9%が、実際にまちづくり活動に参加した経験が「ある」と回答している。これにより、まちづくり活動を認知している人は高い割合で活動に参加していることがわかる。

Fig.4によると、まちづくり活動に参加した経験が「ある」と回答した居住者のうち、6%がまちに対する印象が「とても良くなった」と回答し、52%が「良くなった」と回答している。これから、まちづくり活動への参加が

住民のまちへの印象を改善する要因になっていることが示唆される。

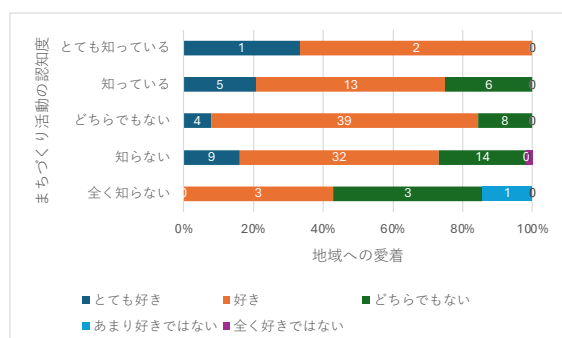


Fig. 1 まちづくり活動の認知度別 地域への愛着 (n=141)

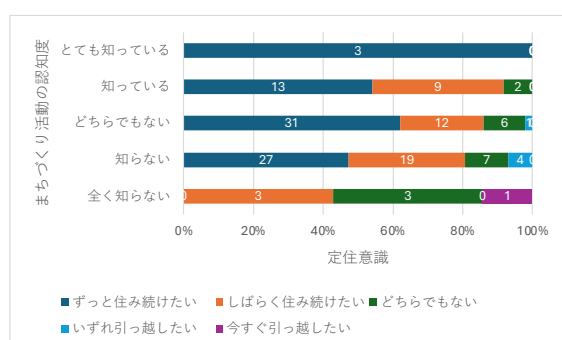


Fig. 2 まちづくり活動の認知度別 定住意識 (n=141)

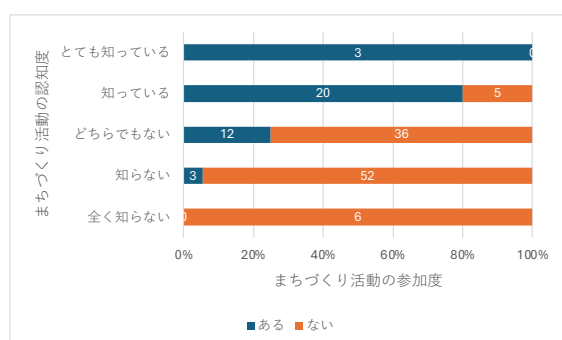


Fig. 3 まちづくり活動後のまちへの印象 (n=137)

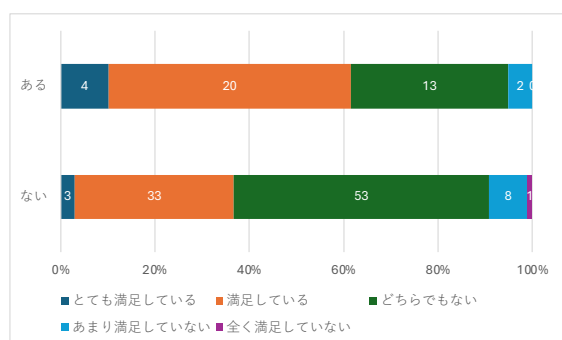


Fig. 4 まちづくり活動への参加による住民の交流満足度の変化 (n=137)

4. 地域交流の参加頻度と住民満足度への影響

Fig. 5では、地域交流に「毎回参加している」と回答した居住者のほとんどが、まちに対して「とても好き」または「好き」と回答している。また、地域交流への参加頻度が低くなるにつれて、まちに対する愛着が低下することから、地域交流に頻繁に参加している居住者ほど、まちへの愛着が強いことが示唆される。

Fig. 6によると、地域交流に「毎回参加している」と回答した居住者全員が、現状の地域居住者との交流について「とても満足している」または「満足している」と回答している。また、地域交流への参加頻度が低くなるにつれて、地域居住者との交流に対する満足度も低下する傾向があることから、地域交流に頻繁に参加している居住者ほど、地域住民との交流に対して高い満足度を持っていることがわかる。

Fig. 7によると、3.2%の居住者が地域交流に参加したことでまちへの印象が「とても良くなった」と回答し、40.9%が「良くなった」と回答した。このことから地域交流への参加が住民のまちへの印象を改善する要因になっていることが示唆される。

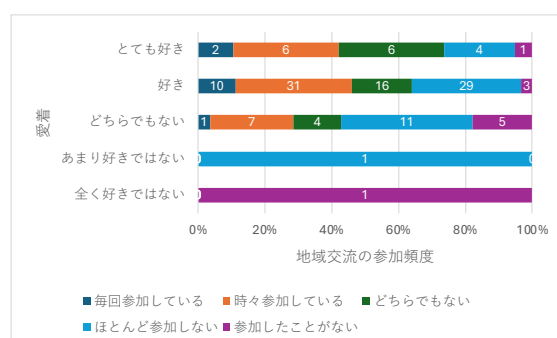


Fig. 5 地域交流の参加頻度別 地域への愛着 (n=138)

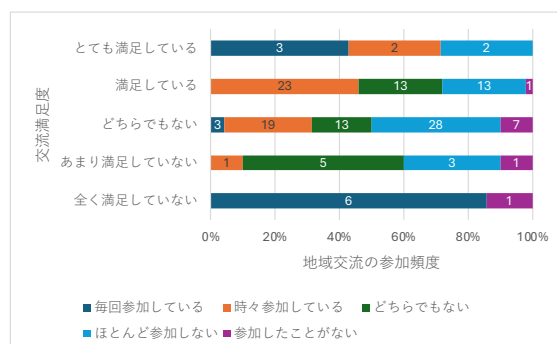


Fig. 6 地域交流の参加頻度別 交流満足度 (n=144)

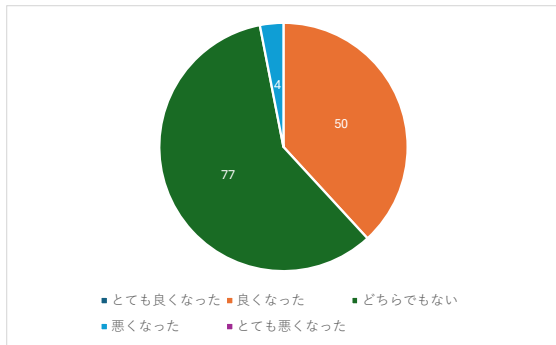


Fig. 7 地域交流への参加後のまちへの印象 (n=131)

5. 地域住民との交流の満足度と愛着

Fig. 8 では、まちが「とても好きである」と回答した居住者の、22.2%が地域住民との交流に「とても満足している」と回答し、55.6%が「満足している」と回答した。また、まちへの愛着が低下していくにつれて、地域住民との交流の満足度も減少していくことから、地域住民との交流の満足度が、まちへの愛着の要因になっていることが示唆される。

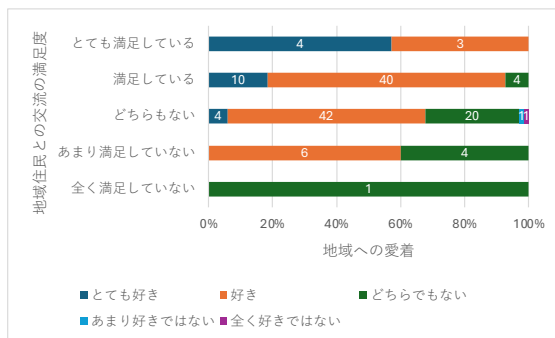


Fig. 8 地域への愛着別 地域住民との交流の満足度 (n=140)

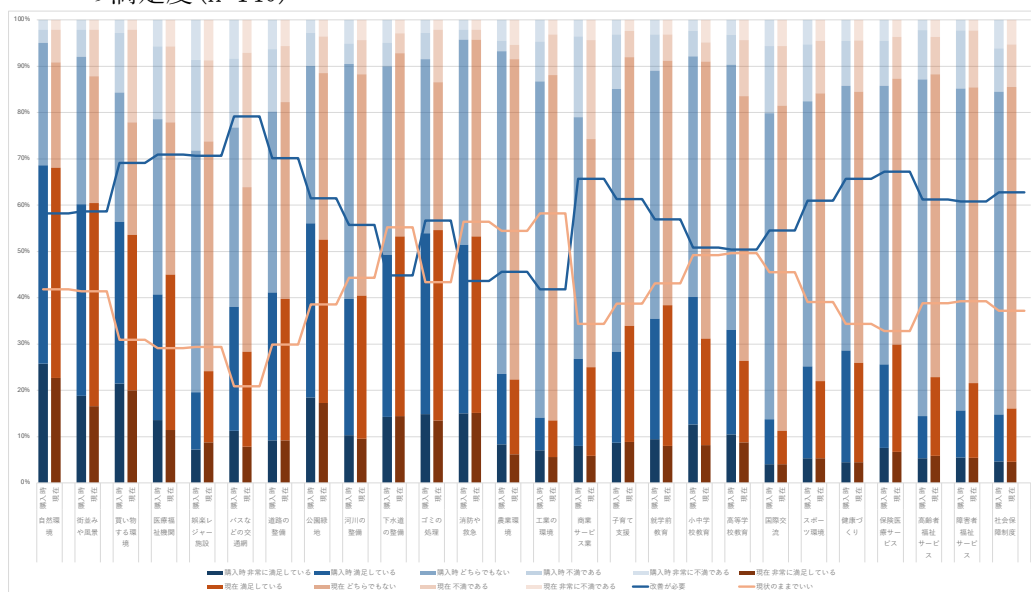


Fig. 9 身近な周辺環境・制度の満足度

6. 住民による周辺環境・制度の全体的な評価と改善要求度

Fig. 9では、現在の周辺環境に対する満足度では、「自然環境」「街並みや風景」「買い物をする環境」「公園・緑地」「ゴミの処理」「消防や救急」の6つの項目について、「とても満足している」または「満足している」と回答した割合が50%を上回った。しかし、その他の20項目では50%を下回った。

一方、将来の改善要求に関しては、「下水道の整備」「消防や救急」「農業環境」「工業環境」全ての項目で「改善が必要」と回答した割合が50%を超えていることがわかった。

Fig. 10では、現在の周辺環境に関する満足度について、「自然環境」と「街並みや景観」の2つの項目で「とても満足している」または「満足している」と回答した割合が50%を上回ったが、他の24項目では50%を下回った。将来の改善要求については、「下水道の整備」「消防や救急」「農業環境」「工業の環境」の4つの項目で「改善が必要」と回答した割合が50%を下回ったものの、その他の22項目については50%を超えていることがわかった。

これらの結果から、居住者はほぼ全ての周辺環境や制度に対して満足しておらず、多くの項目で改善が必要だと感じていることがわかる。また、2つの結果から私生活の関連することや制度に関することへの改善要求度が高い傾向があることがわかる。

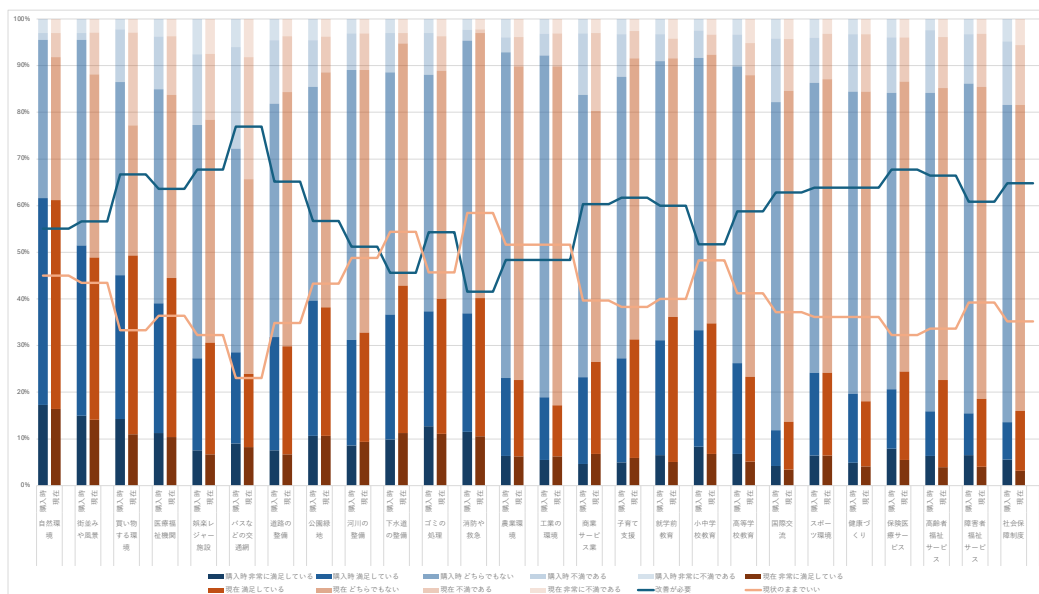


Fig. 10 市区町村の周辺環境・制度の満足度

7. まとめ

本研究で得られた地域主体の持続的なまちづくりにおける福祉のまちづくりの役割や位置付けの傾向的特性について整理する。

1) まちづくり活動と福祉的役割

まちづくり活動を認知し参加している住民は、地域への愛着が強く、住民間の交流が活発であることが確認された。活動の認知度を広げ、住民が積極的に参加できる機会を提供することが、持続可能な福祉的まちづくりに寄与すると考えられる。

2) 地域交流の福祉的意義

地域交流への参加は住民の愛着や満足度を高める要因であり、地域福祉の観点からも重要な役割を果たしている。特に高齢者や障害者など福祉的支援を必要とする住民にとって、地域交流が孤立の防止や日常的なサポートを受けるきっかけとなり、地域全体での見守りや支援の体制が整備されることが期待される。

3) 周辺環境・制度と福祉の充実

住民が周辺環境や制度に不満を感じていることが、福祉のまちづくりにおける課題として浮き彫りになった。身近な地域でのインフラ整備や安全対策に対する改善要求が強く、行政と連携して住民の声を反映することが重要である。

以上のことにより、これらの結果から福祉のまちづくりは、地域居住者の身近な環境の整備を通じて、地域への満足度を高め、愛着や定住意識の形成に寄与する重要な役割を担

っていることが示唆された。今後は、地域の福祉ニーズに応じ、きめ細やかな対応を行うことで、地域住民の定住意識をさらに強化し、持続的なまちづくり活動の実現に向けた基盤を築くことが求められる。

参考文献

- 井出綾香, 野田りさ, 北野幸樹: 地域主体のまちづくり活動の動向と特性, 第 51 回日本大学生産工学部学術講演会, pp. 531~534, 2018. 12
- 井出綾香, 野田りさ, 北野幸樹: 地域主体のまちづくり活動の動向と特性その 2, 第 52 回日本大学生産工学部学術講演会, pp. 427~430, 2019. 12
- 江田貴史, 北野幸樹: 地域主体のまちづくり活動の動向と特性その 3, 第 53 回日本大学生産工学部学術講演会, pp. 397~400, 2020. 12
- 江田貴史, 鶴巻愛瑠, 井出綾香, 野田りさ, 北野幸樹: 地域主体のまちづくり活動の動向と特性その 4, 第 54 回日本大学生産工学部学術講演会, pp. 551~554, 2021. 12
- 鶴巻愛瑠, 江田貴史, 井出綾香, 野田りさ, 北野幸樹: 地域主体のまちづくり活動の動向と特性その 5, 第 54 回日本大学生産工学部学術講演会, pp. 555~558, 2021. 12
- 鶴巻愛瑠, 池田直輝, 井出綾香, 野田りさ, 北野幸樹: 地域主体のまちづくり活動の動向と特性その 6, 第 55 回日本大学生産工学部学術講演会, pp. 469~472, 2022. 12
- 池田直輝, 鶴巻愛瑠, 井出綾香, 野田りさ, 北野幸樹: 地域主体のまちづくり活動の動向と特性その 7, 第 55 回日本大学生産工学部学術講演会, pp. 473~476, 2022. 12
- 池田直輝, 杉田悠登, 井出綾香, 野田りさ, 北野幸樹: 地域主体のまちづくり活動の動向と特性その 8, 第 56 回日本大学生産工学部学術講演会, pp. 417~420, 2023. 12
- 杉田悠登, 池田直輝, 井出綾香, 野田りさ, 北野幸樹: 地域主体のまちづくり活動の動向と特性その 8, 第 56 回日本大学生産工学部学術講演会, pp. 421~424, 2023. 12
- 日本建築学会「地域継承空間・都市持続形成システム調査報告書」(2009)
- 日本建築学会「私の考える日本のサステナブルエリアデザインとコミュニティーアーキテクト」(2009)
- 日本建築学会「日本のサステナブルエリアデザインとコミュニティーアーキテクト」